

奈良県山辺郡都祁村

# 三陵墓古墳群史跡公園



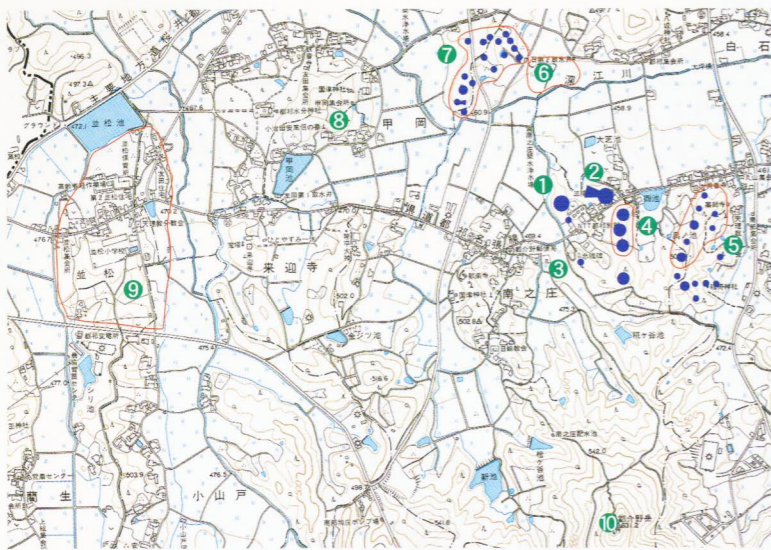
SANRYOBOKOFUNGUNSHISEIKOEN

表紙写真  
 (上) 三陵墓西古墳  
 (下) 三陵墓東古墳

企画・作成 / 都祁村教育委員会  
 ■発掘調査時の遺構・遺物写真は奈良県立  
 橿原考古学研究所の提供による。

都祁村教育委員会

### 三陵墓古墳群周辺図



- ① 三陵墓西古墳
- ② 三陵墓東古墳
- ③ 三陵墓南古墳
- ④ 市場古墳群
- ⑤ 観音山古墳群
- ⑥ 川向遺跡
- ⑦ 川向古墳群
- ⑧ 小治田安萬侶墓
- ⑨ ゼニヤクボ遺跡
- ⑩ 都介野岳

都祁村大字南之庄に所在する三陵墓古墳群は、都介野岳から伸びる尾根上に営まれた古墳群で西古墳・東古墳・南古墳の三基で構成されています。

西古墳は直径40mの円墳で墳丘高5m、墳頂平坦面の直径14mで段築はありません。墳丘斜面には全面に葺石が置かれ、墳丘裾に埴輪列は認められず、墳頂平坦部端に円筒埴輪、朝顔形埴輪が円形に約90本立て並べられていました。1951(昭和26)年に調査された第1主体部は長さ8.4m、幅1.2~1mの割竹形木棺で、粘土による被覆が行われています。木棺には赤色顔料が塗られていました。棺内遺物には琴柱形石製品、埴輪、鉄鏃、鉄剣、鉞、鉄鏝、鉄斧、鉄鎌、白玉、管玉、勾

玉があり、棺外遺物には鉄鏃、鉄剣、直刀、鉄鉾があります。

1995(平成7)年の調査で新たに確認された第2主体部は長さ4m40cm、幅75cmの箱形木棺で棺底には全面に赤色顔料が施されています。棺外遺物には盾、鉄剣、円鏃、鉞、鉄鎌、鉄鏝、鉄刀子があり、棺内遺物には鉄鏃、鞍、埴輪、滑石製白玉があります。2基の主体部の前後関係は墓壇の切り合いから第1主体部が先行しています。築造時期は古墳時代中期前葉(5世紀第I四半期)に位置付けられます。奈良県内にある同時期の円墳では、最大クラスの古墳です。

### 東古墳



西古墳主体部・墓壇表示



竪穴住居跡平面表示

前方後円墳である東古墳は墳丘長110m、後円部径72m、前方部長39m、前方部幅50mの規模を持ち、大和高原・宇陀郡を含めた地域において最大級といえます。埴輪・葺石を備え、後円部は3段築成で下段は地山成形、中段以上は盛土成形されています。築造時期は古墳時代中期後半(5世紀第III四半期)と推定されます。

南古墳は、県道都祁名張線の南側、忠魂碑の裏にある直径16mの古墳時代後期の円墳です。

三陵墓の被葬者について確かなことは判りません。しかし、西古墳、東古墳ともに大和高原にある古墳の中では突出した存在であること、また『古事記』『日本書紀』の記述の中に「都祁直」「鬮鷄国造」と記されていることなどから、国造クラスの有力支配者が考えられます。

1992(平成4)年3月6日、三陵墓東古墳は県史跡に指定され墳丘復元や周辺の整備を行いました。1996(平成8)年3月22日には西古墳・南古墳を併せた三陵墓古墳群として名称変更及び追加指定を受けました。西古墳の墳丘復元、主体部・墓壇の平面表示、埴輪・説明板・モニュメントの設置、竪穴住居跡の平面



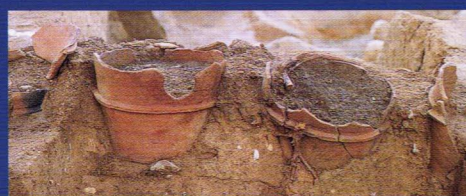
前方部前面



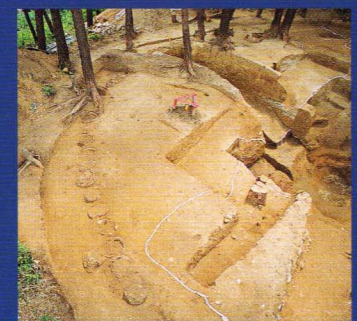
北側くびれ部

表示や芝生広場等史跡公園の整備を行い、都祁村の古代史を紹介する生涯学習施設、また憩いの場として活用を図ります。

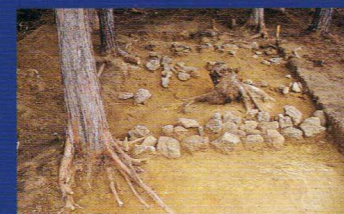
### 西古墳



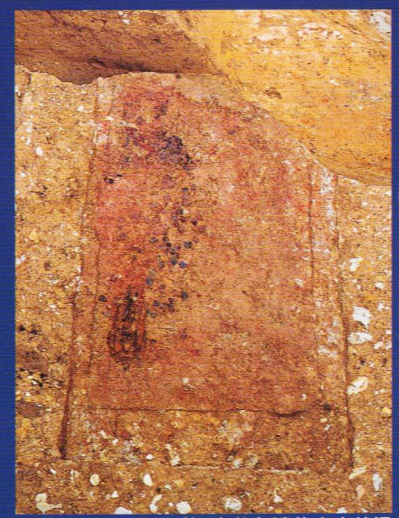
埴輪



埴輪列



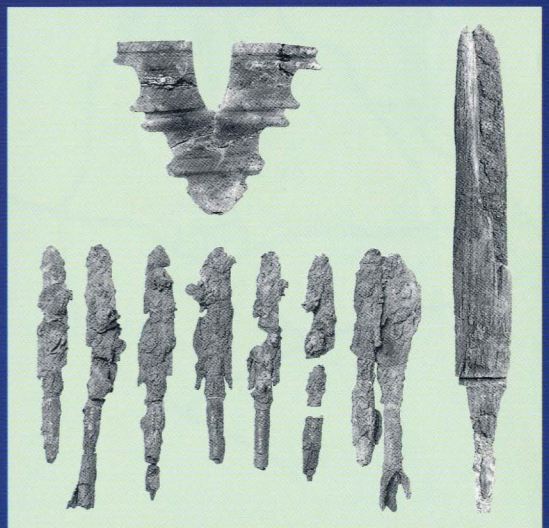
葺石



第2主体部遺物出土状況



第1・第2主体部全景



琴柱形石製品 鉄剣 鉄鏃